

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

ミットが響く「音」

終戦記念日を通り過ぎ、例年ならば夏の甲子園大会の決勝戦が近づいている時期です。この時期の暑さには大概の人が音を上げるものですが、この炎天下の中で地区予選から勝ち上がってきた高校球児の躍動する姿を今年は見ることが出来ないのが残念でなりません。

その一方で、プロ野球が無観客試合ながら開幕しました。テレビ中継を見ているとトランペットや笛・太鼓が騒々しく鳴り響くことのないスタジアムが物寂しいと感じるところか、実に新鮮な発見をすることになったのです。私は忘れかけていたスポーツ本来の「音」に集中してしまっただけです。

まず、ピッチャーが投げた球がミットを叩く音が素晴らしい。その音に集中すると自然と球筋を追うようになります。その次にバットがボールを捉える音の違いがわかるのです。

会心の当たりのときの音、詰ってうち取られた時の鈍い音。これまで視覚に頼っていた映像に、聴覚への刺激が加わることでようやく高性能テレビがスペックどおりの仕事をして上げていることがわかります。無観客試合になって、はじめて本場の臨場感を体感できるのはなんとも皮肉なものです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。7月の初旬より全国の高等学校に当社の求人票を送致しました。何卒、どんな小さなことでもお問い合わせください。誠意をもって説明いたします。

松本 隆一郎